

町長メッセージ

今年の冬は雪が多く、皆さん、朝の雪かきにご苦労されていることと思います。しかし、大雪の年は、豊作・豊漁になるとの話もあります。もうしばらく雪とお付き合いください。さて、今月のメッセージは「町村会報」という冊子に寄稿した文章をご紹介しますと思います。町長として、不退転の決意で町政に臨むという気持ちを含めています。

「一燈照隔 万燈照国」の気概をもつて

厳しい財政下の地方自治の実践に邁進しながら、今は日本に「ふるさと」というものが残るかどうかの分水嶺にあるのかもしれないとの認識に、身の引き締まる思いで新年を迎えた。

地方分権や道州制に対する国・道・市町村の思惑はばらばらで、これからも一筋縄では進まないだろう。国は財政再建を最優先し、市町村合併や交付税減らしを推し進める。道庁は道州制や市町村合併でリーダーシップを発揮せず、市町村の中には目先の自己利益により合併論の本質をすり替え、時には近隣自治体との批判合戦を展開するケースもある。およそこんな具合だと「またもや北海道は、最後は国頼みか」などと言われてしまうのだと思う。

私はこの混沌を打ち破る突破口は、全道市町村首長の良心とリーダーシップではないかと思うのである。道庁勤務時代や首長となつての数日月、見識ある首長と出会

い、故郷を想う心の気高さに感銘した。地方を蔑ろにする国家経営の行く末に、豊かな日本の再生はないと叫ぶとともに、ならばよし、少なくとも自分と自分の住むこの地域は、何としても守り抜く」と決意し、国や道の意向に左右されない自律的地域経営が可能な自治体となる努力を愚直に続けることが大事だと教えられた。

松前町も厳しい財政運営にあるが、有難いことに「松前は北海道文化発祥の地として、この町が持つ風土と文化性を将来世代に継承してゆくのだ」との誇りが町民の総意としてある。北海道の一つ一つのまちが、それぞれに地域を照らすならば、その光は北海道中を照らすことになる。「一燈照隔 万燈照国」の気概を持って、町民との信頼関係を大切に、故郷を守るといふ大きな使命に向かってまいりたい。

松前には全道に先駆けて春の訪れを告げる桜前線がやってくる。今年も松前の桜を全道・全国の方々にお見せしたいと、年明け早々から準備に取り掛かっている。多くの方々の方々の来町を心からお待ち申し上げる。

今月も、心に「元氣」をもって、がんばっていきましょう。



松前町長 前田 一男